



リサファシ通信

第 1 号

2024.1.17 発行



「リサファシ通信」創刊にあたって

山口大学では、令和2年度に文部科学省の先端研究基盤共用促進事業「コアファシリティ構築支援プログラム」に採択され、事業を通じて、現在、学内の研究設備・機器の共用化のさらなる推進、研究設備・機器を戦略的に導入・更新・共用等を図る仕組みの強化(コアファシリティ化)、技術職員の人材育成などに積極的に取り組んでいるところです。

具体的には、令和3年度に決定した「山口大学研究設備・機器の整備・共用促進に係るポリシー」に基づき、コアファシリティ・準コアファシリティ等、全学共用機器への認定・登録に係る評価基準及び二重投資を避けるための方策等を整備すると共に、文部科学省が令和3年度末に制定した「研究設備・機器の共用促進に向けたガイドライン」を受け、本学においても「山口大学における研究設備・機器の共用推進に係るガイドライン」を策定・公表しました。

また、共用機器のデータベース情報を幅広く充実させ、見える化をさらに推進するため、共用機器を主に管理・運用する総合科学実験センターのうち常盤地区及び吉田地区では、管理する全ての機器の予約等について、自然科学研究機構分子科学研究所の「大学連携研究設備ネットワーク」システムを活用した運用に移行しました。

さらには、「大学連携研究設備ネットワーク」システムでは本学が定める共用化指標全てをカバーできないため、総合技術部と連携し、リサーチマップを基に、共用機器利用の有無などの情報を加え、集計・分析する独自システムも構築しました。

こうした取り組みを広く学内に周知し、多くの研究者の皆様にご賛同・ご協力いただくため、今回、広報紙の配信を行うこととしました。

リサーチファシリティマネジメントセンターでは様々な情報の発信に努めて参りますので、リサーチファシリティマネジメントセンターの今後の活動に対しまして、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

リサーチファシリティマネジメントセンター長 上西 研





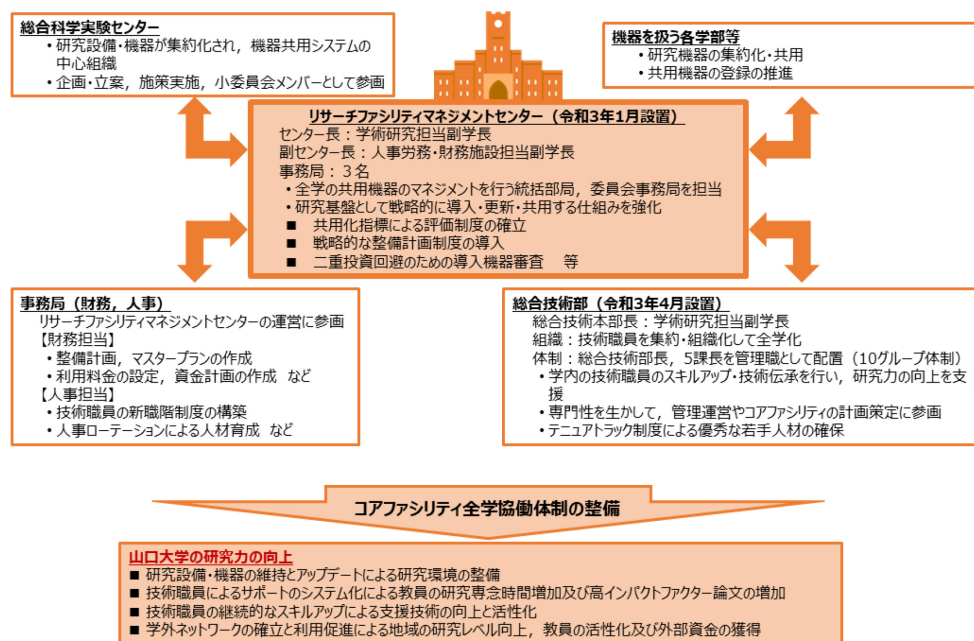
コアファシリティ構築支援プログラムへの取組

令和2年度に採択された「コアファシリティ構築支援プログラム」を着実に進めるため、山口大学では、令和3年1月に、共用システムの中央司令塔として「リサーチファシリティマネジメントセンター」(以下「センター」という。)を学長直下に、また、同年4月には、それまで各部局に配置されていた技術職員を集約・組織化した「総合技術部」を新設しました。

このうち、センター長には学術研究担当理事が、また副センター長には人事労務・財務施設担当理事が着任した一方で、総合技術部では、技術職員をマネジメントも行う部課長ポストに配置するなど、人事面において多様なプロフェッショナルの協働体制を整えました。

こうして新設された組織に、従来の「総合科学実験センター」を加えた3つの組織を中核として、部局や関係事務局などの全学の研究設備・機器整備のステークホルダーが一体となった「コアファシリティ全学協働体制」を構築しました。

今後は、この体制を堅持しつつ研究設備・機器を戦略的に導入・更新・共用等を図る仕組みを強化(コアファシリティ化)することとしています。



機器有効活用マッチング制度について

「機器有効活用マッチング制度」とは、各施設や研究室等で使用されていない、または今後使用する予定がなくなる研究設備・機器をご提供いただき、譲り受けを希望される方に仲介するという制度です。

各施設や研究室等で使用されていない、または今後使用する予定がなくなる研究設備・機器等がございましたら、ご提供くださるようご協力をお願いいたします。

詳細は、リサーチファシリティマネジメントセンターのホームページをご覧ください。

